

【様式】

目指す学校像	「自律・進取・友愛の気概溢れる我が学び舎“チーム城北”」
--------	------------------------------

重点目標	1 自己実現につながる確かな学力の定着・向上 2 自己実現の基盤となる豊かな人間性を育む教育の推進 3 地域と共にあるコミュニティ・スクールの推進 4 高い専門性と機動力を備えた組織づくりと働き方改革の推進
------	--

※重点目標は4つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目は複数設定可。  
 ※番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、  
 方策の評価指標」を設定。

達成度	A	ほぼ達成 (8割以上)
	B	概ね達成 (6割以上)
	C	変化の兆し (4割以上)
	D	不十分 (4割未満)

学 校 自 己 評 価							学校運営協議会による評価		
年 度 目 標							実施日令和 年 月 日		
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策	学校運営協議会からの意見・要望・評価等	
1	<b>【現状】</b> ・全国学力・学習状況調査では、数学は全国平均と比べて良好な結果であった。 ・タブレットの活用率は、本市の中でも高い状況が見られる。 <b>【課題】</b> ・全国学力・学習状況調査では、国語は全国平均と比べてやや課題が見られた。また、市学習状況調査においても、市平均と比較して、全教科において課題が見られる状況があるため、学校として学力向上に取り組んでいく必要がある。 ・全国学習状況調査(一般紙調査)において、全国平均・県平均と比較して、家庭学習の時間が少ない状況があるため、生徒が主体的かつ計画的に学習に取り組むような手立てが必要である。 ・同調査で、勉強が好きと答える生徒は少ない。	主体的に学ぶ生徒の育成	1. 教科ごとに3年間を見通した学習教材の選定及び使用方法の共通理解を深めるため、月1回の教科会を実施する。 2. 計画的な学習につながるような課題設定および単元ごと的小テストの実施 3. 9年間を見通した学習指導体制の実現に向け、城北中学区の小学校と合同での研修会の実施。	1. 3年間を見通した教材選定及び、月1回の教科会等を確実に実施したか。 2. 学校評価アンケートにおいて、家庭学習に係る肯定的評価が70%超。 3. 9年間を見通した学習指導体制の実現のため、小学校と、具体的な手立てを共有し、実践することができたか。					
2	<b>【現状】</b> ・全国学習状況調査(質問紙調査)において、「学校に行くのは楽しい」や「先生はあなたの良いところ認めてくれている。」「困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できる」等の質問に、肯定的に回答した生徒の割合は全国平均を上回っている。 <b>【課題】</b> ・不登校傾向の生徒が多いため、一人ひとりの状況に応じた細やかな支援体制を構築する必要がある。 ・また、「安心・安全な学校の実現」や不登校の未然防止の観点から、組織的対応力の強化も重要である。	不登校生徒に対する支援強化	1. 「SoLa るーむ」の開設及び効果的運用を含めた、不登校生徒への支援体制の見直し、適切に運用する。 2. 学力向上・中1ギャップの解消に向けた、城北中学区の小学校と合同での研修会を実施する。 3. 情報交換にとどまらず、具体的対応策を検討する部会への変革を図る。	1. 全国学力状況調査の結果に基づき、課題に対する具体的な手立てを明確にし、授業改善を図ったか。 2. 「主体的で深い学び」「対話的で深い学び」「個別最適な学び」「協働的な学び」の一体的な充実やそれを具現化する授業改善を行う。	1. 不登校支援体制の充実を通して、不登校生徒の状況改善が図られたか。 2. 中学校区合同の研修会を行うことで、不登校の状況改善につなげることができたか。 3. 教育相談部会が効果的に実施されたか。				
3	<b>【現状】</b> ・令和5年度学校評価(保護者)において、情報発信の項目に対して90%越えの肯定的評価をいただいた。 ・城北中学校学校運営協議委員として城北小・河合小の両校長が学校運営協議会に参加している。 ・地域の方のご協力を頂いている部活動がふえてきている。 <b>【課題】</b> ・城北中学校区(城北小・河合小)としての、「育みたい児童・生徒像」や小・中一貫スローガン、共通指導事項等について検討されていない。 ・「地域との協働」する活動が乏しい。	情報発信・受信体制の強化	1. 各種お便りの充実及び手紙の電子配信体制の本格運用 2. 行事後の保護者アンケートの実施 3. 「学校のきまり」見直しプロジェクトの一環として、保護者アンケートの実施。	1 学校評価において、情報発信体制及び受信体制の両方での肯定的評価90%超。 2 行事後の保護者アンケート及び「学校のきまり」に関する保護者アンケートを確実に実施することができたか。					
4	<b>【現状】</b> 教育課程・日課表の見直し等を通して、組織的「働き方改革」の意識が高まってきている。 エバンジェリストを中心に、業務におけるICT機器の活用割合が高まっている。 <b>【課題】</b> ○業務におけるICT機器の活用割合が高まってきているものの、やや、作業的になっている面がある。 ○授業改善に向け研修等を推進する必要がある。	組織力の向上及び、働き方改革の推進	1. 教務主任や研究主任等を中心とした計画的な校内研修の開催、外部講師を活用した学校課題研究の実施。 2. 重点指導事項の明確化と、それに準じた目標の設定。 3. 年休・調整等の積極的取得の奨励 4. 在校時間把握に基づく、適切な声掛け及び、働き方改革推進に向けた職員アンケートの実施。 5. 月ごとの教育課程検討委員会の実施	1. 学校評価や教員の勤務に関する意識調査(業務改善・協働し合う体制・風通しの良い職場等)の項目において、肯定的な回答80%以上。 2. 教員の勤務に関する意識調査(自分の「働き方改革」について)において肯定的な回答が80%以上。 3. 教育課程等の見直し、計画通りに実施されたか。					

